

令和6年度広報委員会行政視察報告書

広報委員長 宇留間 又衛門

目次

1	視察概要	3
	視察日程	3
	視察委員	3
	調査目的	3
	視察地及び調査項目	3
	(1) 相模原市議会（10月16日）	3
	(2) 山形市議会（10月17日）	4
2	視察報告	4
	(1) 相模原市議会	4
	視察テーマ	4
	視察概要	4
	(2) 山形市議会	9
	視察テーマ	9
	視察概要	9
3	視察の所感	12
	(1) 議会だより	12
	【文章作成】	12
	【写真の使用】	12
	【一般質問の掲載】	13
	【愛称（サブタイトル）の設定】	13
	【配布方法】	13
	(2) 議会告知ポスター	13
	【作成方法】	13
	【活用方法】	13

1 視察概要

視察日程

令和6年10月16日（水）～17日（木）

視察委員

委員長 宇留間 又衛門

副委員長 小坂 さとみ

委員 須藤 博文、亀井 琢磨、青山 雅紀、椛澤 洋平

調査目的

議会だよりを中心とした議会広報に関する取り組みについて、他都市の事例を調査し、協議を進める上での参考とする。

視察地及び調査項目

議会だよりにおいて、本市と同程度の発行回数、判型、ページ数で、特集記事の掲載や紙面のリニューアルを行うなど、作成に力を入れている政令市として相模原市と、中核市議会議長会の議会報コンクールで令和2年度から3年連続受賞しており、紙面が評価されている山形市を選定した。

また、相模原市については、本市と同様に広報手段としてSNS（Facebook と Instagram）を利用しており、フォロワー数は本市より多く、政令市のうち2番目であること、また、ポスターは市内大学の学生がデザインし、公共施設などに掲示していることから視察先として選定した。

（1）相模原市議会（10月16日）

視察テーマ：議会だよりやその他広報の取り組みについて

■ 議会だよりに関する取り組みについて

- ・ 広報会議における取り組み等の決定・実施に至るまでの進め方について
- ・ 年間の発行部数（1回あたり）、発行スケジュール
- ・ 配布対象及び配布方法（経緯も含む）
- ・ 制作において工夫している点や効果・反響について
- ・ 年間予算と経費の内訳
- ・ 過去に行った改善、現状の課題、今後の方向性について

■ その他広報の取り組みについて（SNS、議会告知ポスター等）

（１） SNS に関する取り組みについて

- ・ 概要（発信手段の選定理由、発信内容、発信回数、発信のタイミング等）
- ・ 議員の関わり方（投稿に対するいいね・リポスの依頼、議員による投稿等）
- ・ 見てもらうための工夫（文章構成、写真等）
- ・ Instagram の導入経緯について
- ・ 過去に行った改善、現状の課題、今後の方向性について

（２） 議会告知ポスターに関する取り組みについて

- ・ 概要（発行部数、掲示場所、制作方法等）について
- ・ 年間予算と経費の内訳
- ・ 過去に行った改善、現状の課題、今後の方向性について

（２） 山形市議会（10月17日）

視察テーマ：議会だよりの取り組みについて

■ 議会だよりに関する取り組みについて

- ・ 広報広聴委員会における取り組み等の決定・実施に至るまでの進め方について
- ・ 年間の発行部数（1回あたり）、発行スケジュール
- ・ 配布対象及び配布方法（経緯も含む）
- ・ 制作において工夫している点や効果・反響について
- ・ 年間予算と経費の内訳
- ・ 過去に行った改善、現状の課題、今後の方向性について

2 視察報告

（１） 相模原市議会

視察テーマ

議会だよりの取り組みについて

視察概要

ア 説明者

相模原市議会局政策調査課

総括副主幹 内山 智弘

イ 調査項目に関する回答

■議会だよりに関する取り組みについて

(ア) 広報会議における取り組み等の決定・実施に至るまでの進め方について

各記事に掲載するテーマを広報委員に確認した上で、議会局職員が記事を作成し、広報会議で承認を得た上で発行している。編集業務の根本的な変更等は広報会議に加え、議会運営委員会で承認を得た上で実施している。

(イ) 年間の発行部数（1回あたり）、発行スケジュール

【発行部数（1回あたり）】

155,200部（令和6年8月号）

【発行スケジュール】

定例会初日に①、定例会中に②から④、定例会後から発行までに⑤から⑧を行う。

①広報会議（1回目）を開催し、1面に掲載する画像と特集記事の内容を決定する。

②議会局内で会議を行い、代表質問の記事に掲載するテーマを決め、広報委員に確認する。

③議会局職員が代表質問、個人質疑、常任委員会の記事を作成する。

④議会局内で会議を行い、代表質問の記事を確認後、広報委員に確認を依頼する。

⑤議会局職員が一般質問の記事を作成する。

⑥議会局内で会議を行い、一般質問の記事を確認後、広報委員に確認を依頼する。

⑦広報会議（2回目）を開催し、1面に掲載する画像や特集記事などを確認する。

⑧議会局内で最終確認の上、紙面を確定し、発行する。

(ウ) 配布対象及び配布方法（経緯も含む）

【配布対象】

相模原市民

【配布方法】

昭和46年に各地区の広報連絡員による配布から新聞折込による配布に移行した。新聞折込以外には、希望者へのポスティングや駅・郵便局・コンビニエンスストアへの配架を行っている。

(エ) 制作において工夫している点や効果・反響について

1面特集記事のデザインのアイデア出しに労力をかけているが、効

果・反響は把握できていない。

(オ) 年間予算と経費の内訳（令和6年度予算）

制作費・印刷費 7,460,222 円

配送料 8,547,000 円

合計 16,007,222 円

(カ) 過去に行った改善、現状の課題、今後の方向性について

【過去に行った改善】

平成30年に全面リニューアルし、愛称をつける、文字数を50%削減し、余白と写真を多くするなど大きな変更を行った。また、令和3年に配布先の拡大として、コンビニエンスストアへの配架を開始した。

【現状の課題】

広報会議の中で事務局から様々な提案をしたいところだが、実際は原稿の作成作業に追われており、新たな取り組みを行うことが難しく、広報会議を活性化させることができていないことが課題である。

【今後の方向性】

当面は現在の制作・配布方法で進めていく予定である。

■ SNS に関する取り組みについて

(ア) 概要（発信手段の選定理由、発信内容、発信回数、発信のタイミング等）

【発信手段の選定理由】

20・30代の若い世代に議会を知ってもらいたいという思いから、平成26年1月に、利用者の多いSNSとしてFacebookを開始した。Twitter（現在のX）の導入も検討したが、投稿の文字数が限られているため、導入を見送った。

【発信内容】

会議の予定、正副議長の公務など議会広報に関すること。

【発信回数、発信のタイミング】

発信回数は定めていない。投稿内容に応じ、適宜発信している。

(イ) 議員の関わり方（投稿に対するいいね・リポスの依頼、議員による投稿等）

投稿の拡散をしてくれる議員はいるが、事務局からお願いはしていない。また、市議会のSNSを議員が投稿することはない。

(ウ) 見てもらうための工夫（文章構成、写真等）

必ず投稿内容に関連した画像と合わせて投稿するようにしている。

(エ) Instagramの導入経緯について

若い世代により一層議会を知ってもらいたいという思いから、令和2

年11月に、利用者の多いSNSであるInstagramを開始した。なお、投稿内容はFacebookと同様である（Instagramは本文中にリンクが貼れないため、一部本文を変更している。）。

(オ) 過去に行った改善、現状の課題、今後の方向性について

【過去に行った改善】

大きな改善を必要とせず運営できているため、過去に改善は行っていない。

【現状の課題】

- ・市民と議会との間のコミュニケーションツールとして活用できておらず、一方的な発信になってしまっている。
- ・投稿をしたきり、投稿に対する反応の確認が疎かになるなど、SNSを管理する意識が希薄になってしまっている。

【今後の方向性】

当面は現在の運用方法で進めていく予定である。

■議会告知ポスターに関する取り組みについて

(ア) 概要（発行部数、掲示場所、制作方法等）について

【発行部数】

200枚

【掲示場所】

公共施設の看板やデジタルサイネージに掲示している。

【制作方法】

市内の美術大学の学生が作成したデザインを、広報会議で選定・決定した後、印刷業者に委託し発行している。

(イ) 年間予算と経費の内訳（令和6年度）

印刷製本費 228,800円

市内美術大学への委託料 220,000円

計 448,800円

(ウ) 過去に行った改善、現状の課題、今後の方向性について

【過去に行った改善】

大きな改善を必要とせず運営できているため、過去に改善は行っていない。

【現状の課題】

- ・ポスターを見ても市議会や市政に関心を持つきっかけになりにくい。
- ・ポスターを掲載できる場所が少ない。

【今後の方向性】

当面は現在の運用方法で進めていく予定である。

ウ 主な質疑（□：質疑、■：答弁）

◆議会だよりに関する取り組みについて

□代表質問・一般質問の記事の作成方法は。

■代表質問は、事務局が通告の内容をテーマごとに分け、質問している会派が多いテーマの記事を主に作成している。一般質問は、通告用紙に議会だよりに掲載してほしい質問に印をつける欄を設けており、それをもとに記事を作成している。

□代表質問の記事に質問を行った会派名を記載していないのは理由があるのか。

■質問の内容が被り、後に代表質問を行った会派が質問を取り下げることがあるため、質問を行った会派だけが質問したい内容ではないことを考慮し、あえて会派名を記載していない。

□一般質問の記事はどのように配置しているか。

■原則質問を行った議員順に左から右に並ぶように配置している。ただし、議員の4年の任期中2回は記事に関連する写真を近くに掲載するようにしているため、配置が前後する場合がある。

□一般質問の記事の掲載について、一般質問を行わない議員から不満はあがらなかったか。

■そのようなことはなかった。全議員が2定例会に1回は一般質問を行っている印象であるため、不満はあがらなかったと考える。

□1部あたりの単価を掲載しているが、掲載のきっかけは。

■リニューアルをした際に当時の議長から掲載すべきだという意見を受け、掲載を始めた。

□市民から募集した写真を掲載しているが、応募状況は。

■毎号数枚応募がある。

◆議会告知ポスターに関する取り組みについて

□市内の美術大学の学生が作成したデザインを、広報会議で選定しているが、デザインの選定をネット投票にするなどの、公開の場で市民参加型の方法で行うことは検討しているか。

■元は議会局職員が選定しており、広報会議で選定するよう変更したが、さらに選定方法を変更することは現時点では検討していない。今後検討する可能性はある。



説明を受ける委員



相模原市議会にて

(2) 山形市議会

視察テーマ

議会だよりの取り組みについて

視察概要

ア 説明者

山形市議会事務局議事課

調査係長 高橋 伸幸

調査係 岩出 由惟

イ 調査項目に関する回答

◆議会だより

(ア) 広報広聴委員会における取り組み等の決定・実施に至るまでの進め方について

事務局が記事を作成し、広報広聴委員会で承認を得た上で発行している。

(イ) 年間の発行部数（1回あたり）、発行スケジュール

【発行部数（1回あたり）】

104,000部（令和6年8月号）

【発行スケジュール】

定例会開催1週間前に①、定例会中に②と③、定例会後から発行までに④から⑥を行う。

①審議案件を確認し、レイアウトや特集記事を作成する。

②一般質問終了後、一般質問部分の原稿を作成する。

③予算委員会終了後、委員長報告を基に、補正予算部分や新年度予算部分の原稿を作成する。（決算委員会の場合は、委員会終了後、委員長報告を基に、補正予算部分の記事を作成する。）

④委員長報告を基に、常任委員会部分の記事を作成する。また、議決結果を基に、賛否一覧表などを作成する。

⑤全ての記事を作成した後、広報広聴委員会で承認を得る。

⑥議会事務局内で最終確認の上、紙面を確定し、発行する。

(ウ) 配布対象及び配布方法（経緯も含む）

【配布対象】

山形市民

【配布方法】

昭和42年（創刊時）から広報やまがた（市広報紙）と併せた配布を行っており、自治推進委員等を通じて全戸配布している。山形市は町内会加入率が約90%であり、全世帯数に近い部数を配布することができている。

（エ）制作において工夫している点や効果・反響について

【制作において工夫している点】

- ・読み手に分かりやすくかつ質問内容や答弁内容が変わらないように留意しながら、より市民に伝わりやすいように文言を置き換えている。
- ・「〇〇について」「〇〇に関する」などの言い回しは行政的な表現であり、市民に伝わりづらいため使わないようにしている。
- ・執行部の答弁のうち、特に重要な部分は青文字で強調している。
- ・表紙や記事に関連する写真は、フリーイラスト・写真は使用せず、事務局職員が撮影した季節感を重視した風景や市民が写る写真を使用し、市民が親しみやすい紙面になるようにしている。
- ・一般質問等の記事に掲載する議員の顔写真は、過去の写真を使い回すのではなく、質問時に事務局職員が撮影した写真を使用し、ライブ感を大切にしている。また、写真に写る議員の目線や角度などを考慮し、配置している。

【効果・反響】

発行後は、電話等で市民から「議会報の発行を楽しみにしている」といった声や、「記事に関する制度の所管課を知りたい」などの声が寄せられ、市民から一定の評価を得ているとともに、議会報を手にとってもらえていると感じている。

（オ）年間予算と経費の内訳（令和6年度予算）

印刷製本費	14,536,000 円
（配布を行う自治推進委員宅への配送を含む）	
報償費	4,140,000 円
（配布を行う自治会や録音版の作成を行う高校への謝礼）	
委託料	110,000 円
計	18,786,000 円

（カ）過去に行った改善、現状の課題、今後の方向性について

【過去に行った改善】

より開かれた議会を目指す議会改革の取り組みの一環として、市民から手に取ってもらい、親しんでもらえる議会報にするため、当時設

置されていた議会報委員会からの提案を受け、平成 25 年 12 月から平成 27 年 3 月までの間、リニューアルに向け、協議を行った。協議の結果、全ページカラー化や表紙の全面写真化、愛称（サブタイトル）やそのデザインの公募、レイアウト変更（イラスト・写真・ホワイトスペースの多用など）等を行い、平成 27 年 5 月にリニューアル号を発行した。

その後も、紙面全体を見てもらえるように写真を分布するなどのレイアウトの変更や、議会中継サイトの案内を掲載する等、改善を行っている。

【現状の課題】

脚注にて用語の説明を行っているが、近年は英語の頭文字からとった用語が多く、説明文が長くなりがちであり、スペースの確保に苦心している。

【今後の方向性】

当面は現在の制作・配布方法で進めていく予定である。

ウ 主な質疑（□：質疑、■：答弁）

◆議会だより

□一般質問の記事はどのように配置しているか。また、各議員の記事のうち質疑の順番に決めはあるのか。

■質問を行った議員順に左から右に並ぶように配置している。また、質疑の順番に決めはなく、議会事務局職員で決めているが、質問を行った議員から要望があった際は柔軟に対応している。

□執行部の答弁のうち、特に重要な部分を青文字で強調しているが、強調する箇所は誰が決定しているのか。

■議会事務局職員が決定している。

□議員の顔写真は、質問時に議会事務局職員が撮影した写真を使用しているとのことだが、写真の差し替えを希望するなどの議員からの要望はあるのか。

■現時点ではそういった要望はない。

□声の議会報の作成を市内の高等学校放送部に依頼しているが、依頼する高校はどのように決定しているのか。また、依頼を始めた経緯は。

■高文連放送専門部会と呼ばれる放送部の連盟があり、当部会が依頼先の高校を発行号ごとに決定するため、それに基づき業務を依頼している。元は福祉関係の団体に依頼していたが、業務の遂行が難しくなったことをきっかけに、高等学校の放送部に依頼するようになった。



説明を受ける委員



山形市議会にて

3 視察の所感

行政視察後に開催した広報委員会において、各委員が視察先で「見て感じた」ことを共有し、今後の委員会活動に活かすために意見交換を行った。

その内容をもとに協議し、次のとおり、把握した状況を委員会の所感として取りまとめた。

(1) 議会だより

【文章作成】

山形市では質疑の内容をそのまま用いて文章を作成するのではなく、市民目線で伝わりやすい表現に直して文を作成している。また、「〇〇について」などの行政的な表現の使用は控えたり、記事の執行部答弁のうち、特に重要な部分は青文字で強調するなど、市民が見て理解しやすい文章にするための工夫が多く盛り込まれており、本市も今まで以上に市民目線での文章作成を意識して行うべきだと感じた。

【写真の使用】

相模原市はフォトギャラリーとして市民が応募した写真を掲載している。山形市は市民が写っている写真を表紙に使っており、ともに親しみやすさがあり、市民が手に取りやすい工夫がされていると感じた。特に山形市はフリーイラスト・写真を使わないようにしており、議会事務局職員がすべての写真を用意しているとのことだが、職員の負担がやや大きいと感じた。

【一般質問の掲載】

相模原市、山形市ともに一般質問の記事を掲載しており、本市も掲載すべきだと感じた。特に山形市は議員一人につき6~8問掲載しており、各議員の関

心分野がよく分かるとともに、質問の内容がよく伝わる紙面になっている。また、質問の選定は議員と相談の上で行っており、議員側も議会だよりの掲載を意識することで、一般質問の内容の充実につながると感じた。

ただし、相模原市は一般質問を行う議員が1定例会につき24人以内である、山形市は1定例会につき8人までと決まっているとのことで、レイアウトを決定しやすいが、本市は定例会ごとに一般質問を行う議員数が異なり、人数も多いため、掲載する際には掲載方法を検討する必要があると感じた。

【愛称（サブタイトル）の設定】

山形市のように、公募による愛称（サブタイトル）をつけ、市内学生がデザインし掲載することで個性的な議会だよりになるとともに、市民参加の機会を作ることができると感じた。

【配布方法】

相模原市は新聞折込のため、新聞の購読者のみの配布となり、全戸配布できておらず、この点においては市政だよりに折り込み、全戸配布している本市の配布方法は優れていると感じた。

（2）議会告知ポスター

【作成方法】

相模原市は市内の美術大学と協力してデザインを作成しているが、学生のセンスを取り入れることで若者の議会への関心が高まるとともに、市民に親しみやすいデザインになっている。本市も市内に多くの大学があるため、学生や市民にデザインを公募し、SNSを活用して選定するのが良いのではないかと感じた。

【活用方法】

相模原市はポスターの課題として、ポスターを見ても市議会や市政に関心を持つきっかけになりにくい、また、ポスターを掲載できる場所が少ないことを挙げており、本市もポスターのあり方や活用方法を検討する必要があると感じた。